［研究ノート］

# 東葛地方の庚申信仰

## ―庚申塔密集地域についての一考察―

石田年子

### はじめに

江戸時代に広く民衆の間で行われた民間信仰の一つに、庚申講がある。人の体内には三尸虫という鬼神が住んでおり、庚申の夜になると眠っている体から抜出て天に昇り、その人物の悪業を天帝に告げるため寿命が縮むとする道教の教えをベースとしている。早死から逃れる手段として庚申の夜に講を結び一晩中、会話や飲食で眠らずに過ごして三尸虫が昇天することを阻止しようとするもので、この講衆団を庚申講と呼んだ。当講は六十日に一度巡ってくる庚申の夜に開かれ、目標回数(主に三三回)に達すると庚申塔という石塔を造立することを慣習としていた。今も全国津々浦々に庚申塔が残存することから、庚申講は日本国中で永年広く信じられてきた民間信仰であったことが判る。

関東地方は庚申塔が濃密に分布する地域であるが、筆者は日頃から江戸川東岸の千葉県・東葛地域は特に造立率が高いと感じてきた。江戸に徳川幕府が開かれ、江戸市中への円滑な物資輸送を期して江戸川が開削されて以来、河川交通の繁昌地として経済・文化共に活発であった近世の東葛地方における庚申塔事情をデータ等も駆使して考察してみたい。

### 一、東葛地方の庚申信仰と石造物の変遷

庚申信仰が記録上に現れるのは平安時代からのことで、貴族達が宮中で飲酒や囲碁・詩歌などを楽しみながら一夜を過ごす「庚申御遊」「守庚申」が行われたことが知られている。鎌倉期以後になると武士の間にも広がりがみられ、中世期には「庚申待」として民間の陰陽師や修験者などを通して一般庶民にも庚申信仰が受容されていたことが各地に残る庚申板碑などの調査で確認されている。

近世に入り、当初は村役人や有力農民を中心に厳かに行われていた庚申講であったが、江戸も半ばとなると重要視されていた三尸虫への畏怖や長寿への願望より、会食や世間話の楽しみ、村の決め事や相談、農事の情報交換、無尽講での資金融通のような親睦や情報交換に重点が移り、庚申塔の形態もそれに従って軽いデザインが目立つようになる。最も顕著な例は三猿で、初期には「見ズ・聞ズ・言ズ」のポーズを正面に向って慎ましく取っていた猿が、時代と共に三番叟を踊る猿や妖艶な姿態の猿、子を抱く親子猿など様々な姿へ変化してゆく。

民間信仰は一時の流行で廃れてしまうものが大半であるが、庚申講は近現代まで変容しつつも継続され、現在でも庚申年には庚申塔の造立を行う人々が存在する。このように、永年にわ

たり庶民を引きつけた庚申信仰の魅力とは何だったのだろう。

## 1．東葛地方の庚申塔の歴史

当稿で示す東葛地方とは千葉県北西部にあたる旧東葛飾郡のことで、現在の市川・浦安・鎌ヶ谷・船橋・松戸・流山・野田・柏・我孫子の九市を指す。当地域は江戸市中に流入する江戸川が開削されたことにより、水運の繁栄と相まって大都市・江戸からの経済・文化共に大きな影響を受けた地域である。江戸から伝播する民間信仰の受容も早く、千葉県下の他地域とは動きが異なり、庚申塔の造立も同傾向を示すと思われる。

### ①　庚申板碑について

東葛地方には中世・天文三年（一五三四）より天正一四年（一五八六）の間に庚申信仰の痕跡を残す武蔵型板碑が一六基ほど残されている（表1）。大半が山王二十一仏板碑と云われる天台宗・比叡山の山王権現に由来する板碑で、その多くに「申待供養」「庚申待供養」の銘文が付されていることから、庚申専用の板碑という説もある。昭和四〇～五〇年代に、それまで謎とされていた二十一仏板碑の研究が進み、中世期に関東において強力な勢力であった天台宗が庚申信仰の普及に当板碑を用いた可能性が示唆された（参考資料No.30など）。その分布は越谷市、さいたま市など埼玉県東部周辺を中心とする地域に所在することも判明し、現在は茨城県筑波山周辺の八郷町（現石岡市）などの発見も入れて五〇基余りが確認されている。

この全国的にも珍しい二十一仏庚申板碑を中心に東葛五市に戦国時代の庚申信仰を示す庚申板碑が所在することに注目したい。

### ②　近世の初期庚申塔

中世の山王系庚申板碑は戦国時代の終焉と共に姿を消すが、近世に入り東葛地方に初めて姿を現すのが松戸市幸谷・観音堂に立つ寛永二年（一六二五）造立の庚申塔である。銘文に「奉

**表1．東葛地方の庚申板碑一覧**（二十一仏板碑を庚申板碑と仮定）

| | 地域名 | 所在地 | 種類／銘文等 | 紀年名 | 西暦 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 野田市 | 関宿上町　薬師堂 | 二十一仏種子 | 天文三年十月吉日 | 1534 |
| 2 | 柏市 | 泉755　勢至塚 | バク　奉庚申待供養 | 天文四年乙未二月吉日 | 1535 |
| 3 | 松戸市 | 松戸市所蔵 | 弥陀三尊来迎図　庚申待供養 | 天文十二年十二月吉日 | 1543 |
| 4 | 柏市 | 布施390　妙見堂 | 断碑／庚申　5種子 | 天文十三甲辰 | 1544 |
| 5 | 柏市 | 高田497　聖徳寺 | 二十一仏種子　奉庚申待供養 | 天文十六年丁未二月吉日 | 1547 |
| 6 | 柏市 | 藤ヶ谷　香取神社 | 二十一仏種子　庚申待供養 | 天文十□ | 1550 |
| 7 | 流山市 | 中 | 二十一仏種子　奉庚申待供養 | 弘治三年 | 1557 |
| 8 | 流山市 | 鰭ケ崎　東福寺 | 二十一仏種子 | 天正五年十一月吉日 | 1577 |
| 9 | 我孫子市 | 中峠　天照神社 | 二十一仏種子　申待供養 | 天正九年十一月吉日 | 1581 |
| 10 | 野田市 | 東金野井　本座宅前 | バク　マン　ウーン　申待供養 | 天正十一年癸未 | 1583 |
| 11 | 柏市 | 宿蓮寺429　須賀神社 | 二十一仏種子　庚申待供養 | 天正十三年二月 | 1585 |
| 12 | 野田市 | 東金野井　西福寺(市) | 二十一仏種子　申待供養 | 天正十四年十一月吉日 | 1586 |
| 13 | 野田市 | 堤台　山県墓地 | 断碑／二十一仏種子 | 不明 | 不明 |
| 14 | 柏市 | 花野井　藤井家蔵 | 断碑／奉庚申待[　] バク バイ | 不明 | 不明 |
| 15 | 柏市 | 藤ヶ谷　横山家蔵 | 断碑／奉庚申□ | [　]二月 | 不明 |
| 16 | 流山市 | 上貝塚3　先 | 二十一仏種子　5種子欠 | 不明 | 不明 |

表2. 東葛地方の初期庚申塔造立年(延宝期まで)

| 年代 | 浦安 | 市川 | 鎌ヶ谷 | 船橋 | 松戸 | 流山 | 野田 | 柏 | 我孫子 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1620 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 1630 | | | | | | | | | | 0 |
| 1640 | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 1650 | 1 | 3 | | 1 | 2 | | 1 | 1 | 2 | 11 |
| 1660 | 1 | 16 | | | 11 | 5 | 13 | 3 | | 50 |
| 1670 | | 8 | | 4 | 12 | 7 | 17 | 10 | 4 | 62 |
| 1680 | 1 | 3 | | | 3 | | 2 | 1 | 3 | 13 |
| 計 | 4 | 30 | 0 | 5 | 29 | 12 | 33 | 15 | 9 | 137 |
| 庚申塔総数 | 6 | 110 | 68 | 335 | 325 | 343 | 810 | 483 | 252 | 2737 |

表3. 東葛地方の庚申塔数と密度

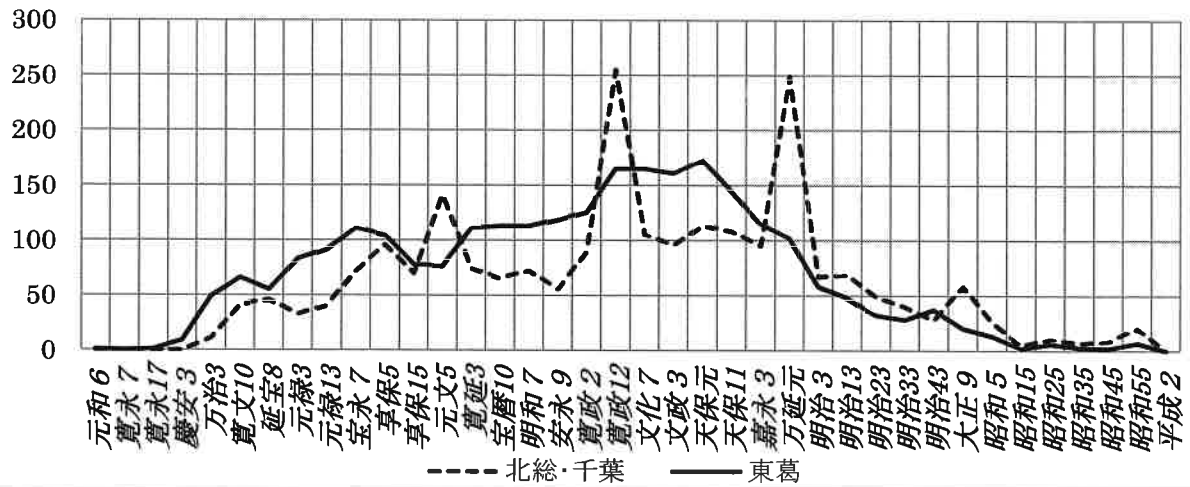
| | 自治体名 | 庚申塔数 | 面積/K㎡ | 密度 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 流山市 | 343 | 35 | 9.8 |
| 2 | 野田市 | 810 | 104 | 7.8 |
| | **関宿領** | **78** | **14** | **5.6** |
| | **庄内領** | **732** | **90** | **8.1** |
| 3 | 我孫子市 | 247 | 43 | 5.7 |
| 4 | 松戸市 | 325 | 61 | 5.3 |
| 5 | 柏市 | 483 | 115 | 4.2 |
| 6 | 船橋市 | 340 | 86 | 4 |
| 7 | 鎌ヶ谷市 | 68 | 21 | 3.2 |
| 8 | 市川市 | 110 | 57 | 1.9 |
| 9 | 浦安市 | 6 | 17 | 0.4 |
| | 東葛地域 | 2732 | 539 | 5.1 |
| | 北総・千葉地域 | 2462 | 1290 | 1.9 |
| | 東京東部14区 | 1323 | 359 | 3.7 |

表4. 北総及び千葉地方の庚申塔数と密度

| | 自治体名 | 庚申塔数 | 面積/K㎡ | 密度 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 八千代市 | 432 | 51 | 8.5 |
| 2 | 白井市 | 270 | 35 | 7.7 |
| 3 | 印西市 | 585 | 124 | 4.7 |
| 4 | 栄町 | 151 | 32 | 4.7 |
| 5 | 東庄町 | 135 | 46 | 2.9 |
| 6 | 神崎町 | 45 | 20 | 2.3 |
| 7 | 香取市 | 414 | 263 | 1.6 |
| 8 | 佐倉市 | 132 | 104 | 1.3 |
| 9 | 酒々井町 | 18 | 19 | 0.9 |
| 10 | 習志野市 | 18 | 21 | 0.9 |
| 11 | 四街道市 | 28 | 35 | 0.8 |
| 12 | 成田市 | 121 | 214 | 0.6 |
| 13 | 千葉市 | 98 | 272 | 0.4 |
| 14 | 富里市 | 15 | 54 | 0.3 |
| | 計 | 2462 | 1290 | 1.9 |

**図1. 東葛・北総地方の庚申塔造立数推移**

**(元和6年(1620)～昭和55年(1980)まで20年ごと表記)**



南無山王二十一社庚申」とあることから天台修験の導師によるものと推察される。寛永期から延宝期までの初期庚申塔の造立年と基数を示した表2から、寛文期から延宝期までが初期庚申塔造立のピークで、浦安・市川・松戸・野田・柏の各市が活発な造塔を行っていたことが見てとれる。浦安・市川を除く三市はその後も順調に庚申塔は増加するが、なぜか浦安・市川の二市はここから急速に造塔が減ってゆくことが不可思議である。



千葉県最古の庚申塔
松戸・幸谷観音堂

### ③　江戸中期以降の庚申塔

江戸中期から庚申塔数は右肩上がりに増加し、多様な庚申塔が造立されて行くことになるが、下総地方の他地域との違いはどうであったのか、東葛地方と北総及び千葉地方（以後北総地域とする）の庚申塔数と庚申塔密度を表した作表（表3・4）で比較してみた。東葛地方の庚申塔数は各自治体刊行の石造物調査報告書や民間の歴史会等が調査して刊行した報告書から抽出した庚申塔数で、東葛九市の総計は二七三二基、庚申塔密度は五・一となっている。但し、参考資料は調査時期や条件がそれぞれ異なることから絶対数とは言えず、あくまでも目安である。

江戸後期には百基の庚申塔造立を目標として造立者を募り、数年間で造立する「百庚申」という信仰が派生しており、この形態のものが各自治体に数組ずつ所在するが、これを実数として数えると膨大な数となり実情にそぐわないと考え、ここでは同時期に造立された庚申塔群を一基として数えた。

東葛地方の庚申塔数と密度を他地方と比較するため、同様に北総地方の庚申塔数と密度も表4として作成した。表3に示したように東葛九市（総面積五三九㎢）に対して北総一四自治体（総面積一二九一㎢）の庚申塔数が三〇〇基ほど少なく、かつ密度もかなりの開きがあることが判る。また、二〇一一年に東京都教育委員会刊行の『文化財の保護』第四三号に発表された「東京東部庚申塔データ集成」では東部一四区（総面積三五九㎢）に一三二三基の庚申塔が報告されており、その数値で見ると東葛地方と二倍ほど差が生じることが判る。東京東部は関東大震災や太平洋戦争での空爆、都市整備の際の破損等で江戸期の実数とは異なることを考慮しなければならないが、いずれにせよ東葛地方の庚申塔数は周辺地域からは突出していることは確かである。

江戸後期には、多造百庚申のほかに、既に造立されている庚申塔に神性を感じ、多数の庚申塔を巡拝して歩く百庚申・千庚申・萬庚申の巡拝塔なども散見され、本来の庚申信仰とは違った形の信仰も派生するほど膨大な数の庚申塔が造立されていたのである。

### 2．東葛地方と北総地方の庚申信仰の相違

両地域の庚申塔造立の推移を図1のグラフに表すと、造立年に大きな違いが出る。北総地方は六十年に一度の庚申年を重視し、元文五年（一七四〇）・寛政一二年（一八〇〇）・万延元年（一八六〇）・大正九年（一九二〇）などに造立年が集中するのに対し、東葛地域は庚申年にそれほど影響されることなく、講が営まれていたと思われる。東葛地方の造立ピークは寛政年間から天保年間で、万延元年の庚申年には北総の半分に造立数が落込み、明治期には減少の一途をたどる。

東葛地方では江戸中期から幕末までの永きにわたり、一定の造立数が保たれていることを考えると村運営には欠かせない定番の行事として定着していたと考えられる。又、江戸後期の増加は庚申信仰を重視する富士講などによる造塔が影響している可能性が高い。

北総地方の民間信仰で東葛地方と明らかに異なるのは、江戸初期より始まる出羽三山信仰である。当地方には三山信仰が定着し、男性は厳しい行人修行と共に出羽三山への登拝を行う奥州参りが通過儀礼として存在し、地域の鎮守神社には、帰郷の後に造立した三山塔が塚上に林立しているのが特徴となっている。また、道祖神信仰も盛んで東葛地方の三倍ほどの道祖神塔も造立されており、庚申信仰は東葛地方ほど重要視されていなかったとも考えられる。

## 二、東葛地方各市の庚申塔事情

東葛地方が庚申塔の多い地方であったことを明らかにしたが、東葛各市のそれぞれの地域性と庚申信仰の特徴について判る範囲で記してみる。

### 1、浦安市

浦安市は明治二二年（一八八九）に主に漁業を生業とする当代島村・猫実村・堀江村三村の合併で浦安村として誕生し、当時は県下最小の自治体といわれた。江戸期よりの寺社も一〇軒程度で、庚申塔数も六基と少ない。

特筆すべきことは、堀江地区・大蓮寺に正保三年（一六四六）の主尊を聖観音とする三猿付の庚申塔があることである。宇田川勘解由という人物が個人で造立したもので、表5の資料では下総地方で二番目に古い塔となる。しかも、最初期の庚申塔は板碑型の文字塔か光背型に三猿が彫られた形が主流であるが、大蓮寺の庚申塔は三猿と仏系の主尊像（聖観音）が同一の石塔に彫られており、この形は千葉県でも相当早いものとなる。

六基の庚申塔のうち四基は正保から寛文までの初期庚申塔だが、それ以後の造立が二基とは少な過ぎる気がする。

外に浦安市堀江・宝城院には石造美術研究の大家であった川勝政太郎氏が太鼓判を押したとされる元文元年（一七三六）造立の庚申塔が県有形文化財となっている。

### 2、市川市

市川市は東葛他市と較べて極端に庚申塔数が少ないのが特徴で、密度も一・九と低い。この傾向は当市の供養塔全般に見られるもので、江戸初期に遡るほど巨大な石塔や見事な彫りの供養塔が造立されたものが、中期半ば頃より造立が大きく減少する。庚申塔も同傾向で、表2に示すように野田・松戸と肩を並べるように広がった庚申塔の造立数がそれ以降極端に減少している。

日蓮宗大本山・中山法華経寺の宗教圏であることから髭題目を彫った日蓮宗系庚申塔が多いのが特徴で、当市の庚申塔の初発は明暦二年（一六五六）に造立された曽谷の日蓮宗・安国寺の釈迦如来像を刻む笠付角柱型の塔である。初期庚申塔三〇基中に日蓮宗系の庚申塔が一一基あり庚申信仰に積極的な姿勢が窺われるが、全体では船橋市や八千代市の日蓮宗系庚申塔数（各六〇基以上）と較べるとかなり差がある。

### 3、松戸市

松戸市幸谷・幸谷観音堂境内に寛永二年（一六二五）に造立された千葉県最古の庚申塔がある。先にも触れたが、二十一仏を配した武蔵型山王板碑は天台修験が広めたとされ、中世より埼玉県東部を中心とする限られた地域にのみ所在するが、当板碑は戦国時代の終焉とともに姿を消し、江戸初期には庚申塔として造立されるようになる。その最古となるものが東京都足立区花畑の正覚院と埼玉県三郷市戸ケ崎の常楽寺両寺に現存するもので、元和九年（一六二三）造立の山王系庚申塔であり、

幸谷の庚申塔はこれに次ぐ古さで県内最古の遺物となる。初期庚申塔の数も二九基でその後の造立数も当地方としては穏当と思える。松戸市も市川市同様に日蓮宗の多い地域であるが、二〇基余りと少なく、市川市と同様な傾向を示している。

**4、鎌ヶ谷市**

江戸期の鎌ヶ谷市域は面積が少ない中で中野牧も擁しており村数も少ない筈であるが、資料によれば庚申塔数が平成二六年（二〇一四）の時点で九六基と隣接する市川市などと較べて多い印象を受ける。これは、市内の粟野地区が元禄一二年（一六九九）より現代まで永年に亘り庚申塔の造立を継続していることが大きい。特に文化一二年（一八一五）からは五年ごとに粟野八坂神社境内に庚申塔の造立が継続され、現在では四五基の庚申塔が林立しており、現代まで信仰が継続している珍しい例である。ただ、これで鎌ヶ谷市内の庚申塔数の半数をしめており、正確な数値が出ないと考え、明治三年（一八七〇）までの一七基に留め、総数を六八基として密度をだした。

**5、流山市**

表1を作成してみて意外だったのが当市の庚申塔密度が九・八と東葛地域で一番高い数値だったことである。基数的には野田市が断然多いが、面積に応じた密度となると結果が違ってくる。江戸期には小金牧もあったことから、居住地の実面積はより狭いはずだが、味醂醸造や船運で経済活動の盛んな土地柄が影響している可能性が高い。しかし詳細は不明である。

**6、船橋市**

江戸期の船橋市は南北を下野牧に分断されており内陸部と沿岸部の地域差がある。北部は非常に日蓮宗系庚申塔が多く市内全域では六〇基余りと東葛地域内で最多となる。又、市川市や松戸市が題目を重視し、いわゆる髭題目を用いるのに対し、船橋市は「帝釈天」「帝釈天王」の主尊銘を刻む塔が多い。

他宗が絡む庚申塔においては多彩なデザインのものが多く、ブログなどに取上げられる塔が目立つ。

**7、柏市**

柏市は平成一七年（二〇〇五）に沼南町と合併し、東葛地域で一番の面積を有する自治体となった。かつては小金牧を擁する山林の多い地域で、利根川沿いで河岸で栄えた布施村などを除けば、「見るも苦しき寒村」と表現される地域であったなどと資料にはあるが、庚申塔としては面積に対する密度は四・五あり、他地域と見劣りはしない。また、柏市の六地区には江戸後期に造立された百庚申群があり、実数としては八七六基の庚申塔が所在し、庚申信仰の盛んな地域であったと考えられる。

**8、我孫子市**

先に述べた二十一仏板碑の東限が我孫子市中峠の天照神社が所蔵する天正九年（一五八一）造立の板碑と言われており、江戸初期の庚申塔も万治二年（一六五九）の造立が二基ある。

我孫子市も庚申塔密度が五・九と高い数値を出しており、利根川・手賀沼水運と林業による豊かさが影響している可能性を感じる。我孫子市は市の調査の外に民間の我孫子市史研究センターが庚申塔調査を行い、詳細を冊子「我孫子の庚申塔」にまとめている。

**9、野田市**

野田市の庚申塔数は東葛地方でも群を抜いて八一〇基余となっている。初期庚申塔においても延宝期までの造立数が三三基とその後も途切れることなく多彩な庚申塔の造立が継続されている。関宿台町・不動堂境内に立つ寛文三年（一六六三）造立の庚申塔は主尊に青面金剛を刻むものとしては千葉県最古のもので、関宿河岸の繁栄により江戸からの情報をいち早く取り込める土地柄によるものと考えられる。

現在の野田市域は、江戸時代には北部の関宿領と、木間ケ瀬以南の天領や旗本領の入組む庄内領という慣例的な括りがあり、民間信仰においても大きな違いが認められる。二領域で造

## 表5. 下総＜東葛・北総・千葉＞地方の庚申塔造立年順(初出から順に80基)

| No. | 自治体名 | 所在地 | 主銘文 | 像容 | 形式 | 造立年 | 西暦 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 松戸市 | 幸谷　幸谷観音堂 | 奉南無山王廿一社庚申　為現世安穏後生善處也 | | 板碑型 | 寛永二乙丑年十一月吉日 | 1625 |
| 2 | 浦安市 | 堀江　大蓮寺 | 奉待庚申御願成□　宇田川勘解由　法名常仲 | 聖観音　三猿 | 光背型 | 正保三丙戌天八月廿二日 | 1646 |
| 3 | 松戸市 | 古ヶ崎　不動尊 | イ　奉造立庚申供養二世安楽所 | 三猿後付 | 板碑型 | 慶安三年霜月吉辰 | 1650 |
| 4 | 佐倉市 | 先崎　先崎地蔵尊 | 奉造立庚申人数廾五人　先崎村 | 延命地蔵 | 丸彫型 | 慶安三庚申二月二十四日 | 1650 |
| 5 | 野田市 | 木間ヶ瀬飯塚 協同館脇 | 梵字　奉納庚供養二世悉地成就処逆修 | | 板碑型 | 承応三年十月吉日 | 1654 |
| 6 | 松戸市 | 樋野口　大乗院 | ﾊﾞｸ　奉造立石佛申待□念佛供養二世安楽攸 | | 板碑型 | 明暦二年十月吉日 | 1656 |
| 7 | 市川市 | 曽谷　安国寺 | 妙法　奉曽谷郷庚申待石佛造立趣處　大願成就 | 釈迦如来 | 笠付型 | 明暦二年丙申十一月吉日 | 1656 |
| 8 | 市川市 | 平田　聖徳太子堂 | 庚申之講衆十四人平田村　願主及河四郎兵衛 | 聖徳太子 | 光背型 | 万治元年戊戌九月十三日 | 1658 |
| 9 | 柏　市 | 藤心　宗寿寺 | ア　奉新開眼供養庚申待石塔一宇爲二世安楽 | | 板駒型 | 万治元年戊戌十一月吉日 | 1658 |
| 10 | 市川市 | 新井　延命寺 | カ　奉造立本尊　奉待庚申講一座二世成就處 | 延命地蔵 | 光背型 | 万治二己亥天八月十二日 | 1659 |
| 11 | 市川市 | 新井　延命寺 | 奉待庚申結一座二世成就所 | 延命地蔵 | 光背型 | 万治二年六月十二日 | 1659 |
| 12 | 我孫子市 | 青山 八幡神社 | 奉建立石塔一躰二世安楽所 | 三猿 | 光背型 | 万治二年己亥今月吉日 | 1659 |
| 13 | 我孫子市 | 高野山　香取神社 | 奉造立庚申(講衆)二世安楽所 | | 光背型 | 万治二年己[　　] | 1659 |
| 14 | 八千代市 | 吉橋　八幡神社 | 為庚申待現当二世悉地成就処　諸救十八結衆 | 三猿 | 笠付型 | 万治三年十月吉日 | 1660 |
| 15 | 市川市 | 真間　弘法寺 | 南無妙法蓮華経　逆修七分全徳　庚申講之人数 | | 笠付型 | 万治第四辛暦正月下旬 | 1661 |
| 16 | 印西市 | 竹袋 観音堂 | | 聖観音　三猿 | 光背型 | 寛文元年辛丑七月吉日 | 1661 |
| 17 | 成田市 | 磯部路傍　堂内 | カ　庚申礼待　廿三夜待 | 地蔵菩薩 | 光背型 | 寛文元辛丑年十月廿四日 | 1661 |
| 18 | 野田市 | 中里　西岸寺 | カ　庚供養　庄内中里村 | 延命地蔵 | 光背型 | 寛文二壬寅十一月拾日 | 1662 |
| 19 | 流山市 | 前ヶ崎　香取神社 | ｷﾘｰｸ　奉造立山王権現二世成悉地・庚申寄立旦那等 | | 板碑型 | 寛文壬寅二年今月吉日 | 1662 |
| 20 | 野田市 | 関宿台町　不動堂 | ア | 青面金剛 | 光背型 | 寛文三癸卯歳八月吉日 | 1663 |
| 21 | 佐倉市 | 新町　嶺南寺 | 奉造建庚申塔 | 三猿 | 角柱型 | 寛文三癸卯歳小春吉祥日 | 1663 |
| 22 | 野田市 | 野田下町　個人屋敷神 | ｷﾘｰｸ　ｻ　ｻｸ　奉造立山王二十一社為庚申供養二世安楽也 | | 板碑型 | 寛文三癸卯十一月大吉日 | 1663 |
| 23 | 松戸市 | 幸田　香取駒形神社 | 卍　奉造立山王權現為二世成就也 | | 板碑型 | 寛文三癸卯十一月日 | 1663 |
| 24 | 市川市 | 下貝塚　本住寺 | 妙法 奉待庚申石佛造立所 | 釈迦如来 | 光背型 | 寛文四甲辰天二月吉日 | 1664 |
| 25 | 松戸市 | 横須賀　正福寺 | ｱｰﾝｸ　奉造立寶庚申供養二世安全所 | 三猿 | 板碑型 | 寛文四甲辰年二月吉日 | 1664 |
| 26 | 香取市 | 佐原　法界寺 | 奉造立庚申石塔 | 阿弥陀如来 | 光背型 | 寛文四年五月十五日 | 1664 |
| 27 | 市川市 | 湊新田　胡録神社 | 奉造立庚申神徳者七佛悲霊應跡充去楽秘術也 | | 板碑型 | 寛文四甲辰八月吉祥日 | 1664 |
| 28 | 浦安市 | 当代島　善福寺 | カ　奉安置六道能化庚申結衆助力男女二世安楽也 | 延命地蔵 | 光背型 | 寛文四天甲辰九月吉日 | 1664 |
| 29 | 松戸市 | 七右衛門新田　稲荷神社 | ｵﾝ　ﾎﾞｸ　ｹﾝ　ｱ　奉供養庚申待成就所 | | 板碑型 | 寛文四年甲辰十月吉日 | 1664 |
| 30 | 船橋市 | 鈴身町　霊園前 | ｷﾘｰｸ　蓮蔵院 | 三猿 | 笠付型 | 寛文四甲辰天十一月吉日 | 1664 |
| 31 | 市川市 | 稲荷木　双輪寺 | ｻ　奉造立　庚申供養為二世安楽逆修也 | 聖観音 | 光背型 | 寛文四年今月吉日 | 1664 |
| 32 | 柏　市 | 塚崎　東福寺 | 奉造立庚申供養成就所 | 三猿 | 板碑型 | 寛文五年乙巳天三下旬吉日 | 1665 |
| 33 | 松戸市 | 上本郷　本福寺 | ｷﾘｰｸ　ｻ　ｻｸ　奉修造立庚申供養二世安穏成就攸 | | 板碑型 | 寛文五乙巳天三月吉日 | 1665 |
| 34 | 市川市 | 香取　香取神社 | ｱ　ﾊﾞﾝ　ｳｰﾝ　奉造立庚申供養 | 三猿 | 板碑型 | 寛文五年乙巳九月十五日 | 1665 |
| 35 | 市川市 | 押切　おかね塚 | ｷﾘｰｸ　…奉待庚申□□如是石佛尊像造立處也 | 阿弥陀如来 | 光背型 | 寛文五年乙巳年十月十五日 | 1665 |
| 36 | 松戸市 | 胡録台　裏通 | ｷﾘｰｸ　ｻ　ｻｸ　甲神供養為二世也 | | 板碑型 | 寛文五年乙巳天十一月廿八日 | 1665 |
| 37 | 野田市 | 岡田148　香取神社 | 岡田村 | 三猿 | 板碑型 | 寛文六年午四月十日 | 1666 |
| 38 | 野田市 | 古布内1000　路傍 | 奉造立庚申供養 | 三猿 | 板碑型 | 寛文六天丙午七月吉日 | 1666 |
| 39 | 市川市 | 二俣2 路傍 | ｳｰﾝ　奉□庚申□□念願成就所 | 三猿 | 板碑型 | 寛文六丙午天九月十日 | 1666 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 40 | 流山市 | 流山６　光明院 | ｱｰﾝｸ　奉造立庚申供養並念仏供養衆二世成就処 | 大日如来 | 丸彫型 | 寛文六丙午年九月吉日 | 1666 |
| 41 | 市川市 | 河原　養福院 | 奉造立申□道行 | 三猿 | 駒　型 | 寛文六天丙午十一月一日 | 1666 |
| 42 | 松戸市 | 大橋632　浄念坊 | 奉待庚申人□ | 延命地蔵 | 笠付型 | 寛文六年十月二十四日 | 1666 |
| 43 | 成田市 | 滑川　龍正院 | 滑河村　松田新左衛門 | 三猿 | 板碑型 | 寛文六丙午十月吉日 | 1666 |
| 44 | 流山市 | 平方　香取神社 | 庚申待供養之塔二世安楽攸 | | 板碑型 | 寛文丙午天十一月吉日 | 1666 |
| 45 | 野田市 | 丸井114　小林家前 | | 三猿 | 板碑型 | 寛文六丙午天□月吉日 | 1666 |
| 46 | 香取市 | 南下宿　善光寺墓地 | | 青面金剛 | 光背型 | 寛文六年 | 1666 |
| 47 | 東庄町 | 笹川い宿浜　延命寺 | イ　奉待人数／□奉拝元恵 | 地蔵菩薩　二猿 | 光背型 | 寛文七天丁未二月十五日 | 1667 |
| 48 | 香取市 | 外浜　須賀神社 | 待庚申　南無阿弥陀佛 | 三猿 | 板碑型 | 寛文七丁未天三月十七日 | 1667 |
| 49 | 成田市 | 冬父　迎接寺 | 奉庚申供養成就二世安楽之所 | 地蔵菩薩 | 丸彫型 | 寛文七年三月吉日 | 1667 |
| 50 | 野田市 | 木間ヶ瀬 松ノ木天満宮 | 奉供養庚申二世安楽願所 結衆 | 三猿 | 板碑型 | 寛文七丁未年八月十四日 | 1667 |
| 51 | 野田市 | 西高野　西高野会館 | 奉造立庚供養之所 | 阿弥陀如来 | 光背型 | 寛文七年未九月十八日 | 1667 |
| 52 | 市川市 | 鬼越　神明寺 | 奉成就庚申供養 | 三猿 | 笠付型 | 寛文七丁未暦九月十八日 | 1667 |
| 53 | 流山市 | 平和台　大宮神社 | 奉造立庚申二世安全所 | 延命地蔵 | 光背型 | 寛文七丁未年十月十五日 | 1667 |
| 54 | 流山市 | 木　香取神社 | サ　奉造立庚申供養二世安穏処／逆修 | 聖観音 | 光背型 | 寛文七丁未天十月吉祥日 | 1667 |
| 55 | 松戸市 | 馬橋　万満寺 | 馬橋村 | 延命地蔵 | 光背型 | 寛文七丁未年十一月吉日 | 1667 |
| 56 | 印西市 | 浦部　庚申塚 | 奉造立庚申興二世安穏 | 三方猿 | 光背型 | 寛文七丁未十一月吉日 | 1667 |
| 57 | 松戸市 | 千駄堀　香取神社 | 奉修造山王一社石宮庚申結衆現當安□□ | 三猿 | 石祠型 | 寛文七季丁未仲□吉辰 | 1667 |
| 58 | 栄　町 | 布鎌請方水源（鎮守様） | 青面金剛／請方宮口 | | 駒　型 | 寛文七□ | 1667 |
| 59 | 松戸市 | 下矢切　薬師堂脇 | ｷﾘｰｸ　サ　ｻｸ　奉造立庚申為結衆二世安楽 | 青面金剛 | 光背型 | 寛文八戊申二月吉日 | 1668 |
| 60 | 松戸市 | 上本郷　地蔵堂 | ｷﾘｰｸ　サ　ｻｸ | 地蔵菩薩・三猿 | 光背型 | 寛文八戊申二月吉祥日 | 1668 |
| 61 | 野田市 | 関宿台町　光岳寺 | ア | 青面金剛 | 光背型 | 寛文八年申四月吉日 | 1668 |
| 62 | 野田市 | 平井70　路傍 | 奉造立庚申供養菩提 | 青面金剛一猿一鶏 | 光背型 | 寛文八申天八月吉日 | 1668 |
| 63 | 市川市 | 新井　新井寺 | 二世安楽 | 三猿 | 板碑型 | 寛文戊申九月六日 | 1668 |
| 64 | 市川市 | 湊新田　胡録神社 | ｷｬ　奉靭庚申供養二世安楽祈所 | 三猿 | 板碑型 | 寛文八戊申年九月十四日 | 1668 |
| 65 | 野田市 | 目吹2018　個人蔵 | 今上村造立 | 三猿 | 板碑型 | 寛文八年申九月吉日 | 1668 |
| 66 | 柏　市 | 手賀1442 | | 大日・三猿 | 光背型 | 寛文八年十月廿五日 | 1668 |
| 67 | 野田市 | 中里　満蔵院 | 奉造立庚申供養 | 地蔵菩薩 | 光背型 | 欠落天戊申霜月日 | 1668 |
| 68 | 香取市 | 川尻・水神社 | 奉造立庚□諸願成弁處 | 三猿 | 板碑型 | 寛文八戊申年今月今日 | 1668 |
| 69 | 香取市 | 八日市場　墓地 | 庚申供養 | 三猿 | 光背型 | 寛文八戊申天三月吉日 | 1668 |
| 70 | 成田市 | 名古屋128 路傍 | | 青面金剛　三猿 | 板碑型 | 寛文第九己酉暦正月廿八日 | 1669 |
| 71 | 香取市 | 森戸　福満寺 | 奉待帰命庚申供養結衆拾人除苦與楽處 | | 板碑型 | 寛文九己酉正月吉日 | 1669 |
| 72 | 市川市 | 大野町　青松庵 | 妙法奉帝釈待所願成就所 | | 板碑型 | 寛文九乙酉天二月十三日 | 1669 |
| 73 | 野田市 | 元町　地蔵堂 | 奉寄進庚申講中 | 青面金剛　三猿 | 板駒型 | 寛文九乙酉天九月晦日 | 1669 |
| 74 | 松戸市 | 東平賀　雷神社 | （梵字）奉造立庚申供養□□所／妙法蓮華経奉待庚申 | | 板碑型 | 寛文九乙酉年九月吉日 | 1669 |
| 75 | 市川市 | 大野町　青松庵 | 妙法　奉待庚申石佛造立所 | 釈迦如来 | 光背型 | 寛文乙酉天十月吉日 | 1669 |
| 76 | 市川市 | 北方町　妙正寺 | 奉勧請庚申 | | 板碑型 | 寛文乙酉天十一月朔日 | 1669 |
| 77 | 市川市 | 市川　観音寺 | ｷﾘｰｸ　庚申意趣者　如等所行是菩薩道　漸々修覚悉當成仏 | 三猿 | 光背型 | 寛文九年乙酉霜月二日 | 1669 |
| 78 | 市川市 | 奉免町　路傍 | 妙法蓮華経　奉庚申佛開眼処 | | 板碑型 | 寛文九乙酉天十一月廿五日 | 1669 |
| 79 | 神崎町 | 小松　浄専寺 | カ　奉供養地蔵菩薩庚申待日記廿三夜待為二世安楽也 | 地蔵菩薩 | 光背型 | 寛文九己酉十一月吉日 | 1669 |
| 80 | 柏　市 | 塚崎　塚崎神社 | 奉納庚申待成就　御神前手水鉢 | | 手水石 | 寛文九己酉年 | 1669 |

立数にどれ程の違いがあるか表3に表してみると、庄内領は流山に次ぐ密度となり、造立数も七三二基という高い数値となった。

表1の東葛地方の庚申板碑に、庚申待供養の文字は無いものの、天文三年（一五三四）造立の二十一仏板碑をはじめ四基の庚申板碑が残されていることから、庚申信仰に縁の深い地域であったと考えられる。野田市八一〇基の庚申塔については稿を変えて書く予定だが、突出した特徴に寛政五年（一七九三）に桜台・桜木神社に造立された猿田彦庚申塔を初めとし一〇六基の神道系の庚申塔が遺存し、うち一七基が猿田彦像を刻む塔である。富士講の繁栄も影響して、神道系庚申講をいち早く受容した地域と考えられる。



千葉県最初の青面金剛像
野田・台町不動堂

## おわりに

この論考の庚申塔数を出すにあたり地方自治体の報告書のほかに、多くの市井の地方史研究グループや個人の方々が、何年もかけて地を這うような調査の上で刊行した石仏報告書に出会った。何の見返りもない地道な作業の継続で生まれた貴重な報告書を刊行された方々に心から敬意を表したい。

この稿を書くにあたり、流山市立博物館を初め、佐倉市・田中征志氏、松戸市・入谷雄二氏、船橋市・大塚武彦氏のご協力を賜った。紙面を借りてお礼を申し上げる。

（いしだ・としこ　当館調査協力員）

【参考資料】
1.『流山庚申塔探訪―流山市立博物館調査研究報告書24』平成19年、流山市教育委員会
2.『野田市金石調査資料集』昭和42年、野田市市史編纂委員会
3.『関宿町の石物』昭和58年、関宿町教育委員会
4.『関宿町の石造物』平成14年、石田年子／私家版
5.『我孫子の庚申塔』平成12年、我孫子市史研究センター
6.『松戸市・石造物遺産』平成29年、　松戸史跡マップ研究会
7.『柏の金石文Ⅰ・Ⅱ』平成8年、柏市教育委員会
8.『沼南町史史料集　金石文Ⅰ・Ⅱ』平成4年、沼南町教育委員会
9.『鎌ヶ谷市資料編Ⅱ金石文』昭和61年、鎌ヶ谷市教育委員会
10.『鎌ヶ谷市史研究27号』資料紹介―粟野庚申塔群、平成26年、鎌ヶ谷市教育委員会
11.『船橋市の石造文化財』昭和59年、船橋市教育委員会
12.『市川市の石造物―市川市石造文化財調査報告書』平成20年、市川歴史博物館
13.『浦安の石造物―浦安市石造物調査報告書』平成元年、浦安市教育委員会
14.『八千代市の歴史　近現代Ⅲ　石造文化財』平成18年、八千代市教育委員会
15.『白井町石造物調査報告』昭和62年～、白井町教育委員会
16.『印西町石造物1～8集』昭和54年～、印西町教育委員会
17.『栄町の石造物シリーズ1　栄町の庚申塔』平成元年、栄町教育委員会
18.『東庄町石造文化財調査報告』平成25年、房総石造文化財研究会
19.『神崎町史資料集　金石文等』平成3年、神崎町教育委員会
20.『佐原市石造物目録』平成18年、佐原市教育委員会
21.『下総町石造物目録』平成18年、下総町教育委員会
22.『印旛村石造物一覧表』平成18年、千葉県中央博物館
23.『佐倉市の庚申塔と道標』平成28年、天野和邦／私家版
24.『四街道市の文化財　23号』平成9年、四街道市
25.『小見川の石造物　Ⅰ～Ⅳ』平成21年～、小見川史談会
26.『千葉市石造文化財調査報告』平成27年、沖本博　私家版
27.『富里市民俗文化財調査報告書1～4』平成18年、富里市教育委員会
28.『成田市・八街市・習志野市　石造物調査データ』昭和63年～、千葉県中央博物館
29.『東京東部庚申塔データ集成／『文化財の保護43号』平成23年、東京都教育委員会
30.「山王二十一社板碑について」『日本の石仏　12号』昭和54年、星野昌治　日本石仏協会